

授業科目 (科目ID)	口腔保健管理  22d121		担当教員  (実務経験)	藤澤 雅子  歯科衛生士として、患者の口腔保健管理プログラムを作成、実施しており当該科目の教育を行う。		
対象年次・学期	1年・通年		必修・選択区分	必修	単位数	2単位
授業形態	講義		授業回数(1回90分)	15	時間数	30時間
授業目的	臨床の現場で個々の患者に適した口腔保健管理プログラムを作成し、実践できる能力を身につける。					
到達目標	臨床での齲蝕予防と歯周疾患予防の基礎知識を述べることができる。ライフステージごとの口腔保健管理計画の理論と実際を述べるができる。プロフェッショナルケアとホームケアの違いを区別している。処置内容の業務記録を書くことができる。					
テキスト・参考図書等	・最新歯科衛生士教本「歯科予防処置・歯科保健指導」(医歯薬出版) ・最新歯科衛生士教本「保険生態学」(医歯薬出版)					
評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準			
	試験	60%	①定期試験60% ②提出物 40%			
	レポート	%				
	小テスト	%				
	提出物	40%				
その他	%					
履修上の留意事項	①講義の中で基礎的知識を解説する。 ②口腔清掃用具の種類と使い方を示説する。 ③実際に業務記録を書いてみる。 ④授業中はノートをとる。 ⑤提出物の期限は守る。 ⑥積極的な態度で取り組むこと。 ⑦学習内容のボリュームが多いので遅れないこと。					
履修主題・履修内容	回数	履修主題			履修内容	
	1	口腔内観察			正常な口腔と病的口腔の違い	
	2	う蝕の予防			う蝕の発生要因と機序	
	3	う蝕のケア			ホームケアとプロフェッショナルケア	
	4	歯周病の予防			健康な歯肉と歯肉炎と歯周炎	
	5	歯周病のケア			ホームケアとプロフェッショナルケア	
	6	う蝕の継続管理			ブラークの付着状態、フッ化物の応用	
	7	歯周病の継続管理			歯周精密検査とPMTC	
	8	補綴物の継続管理			局部床義歯と全部床義歯	
	9	矯正歯科治療の継続管理			ブラケット装置装着と保定装置	
	10	特別な要因がある場合			知覚過敏症、口呼吸、喫煙者の継続管理	
	11	う蝕の業務記録			歯科衛生過程とSOAP ～う蝕処置後	
	12	歯周病の業務記録			歯科衛生過程とSOAP ～歯周病の場合	
	13	補綴物の業務記録			歯科衛生過程とSOAP ～ブリッジ装着後	
	14	矯正歯科治療の業務記録			歯科衛生過程とSOAP ～装置装着後	
15	総括			口腔保健の意義、歯科保健行動、歯科県境教育		

授業科目 (科目ID)	口腔保健管理  22d121		担当教員  (実務経験)	藤澤 雅子  歯科衛生士として、患者の口腔保健管理プログラムを作成、実施しており当該科目の教育を行う。		
対象年次・学期	1年・後期		必修・選択区分	必修	単位数	2単位
授業形態	講義		授業回数(1回90分)	15	時間数	30時間
授業目的	臨床の現場で個々の患者に適した口腔保健管理プログラムを作成し、実践できる能力を身につける。					
到達目標	臨床での齲蝕予防と歯周疾患予防の基礎知識を述べることができる。ライフステージごとの口腔保健管理計画の理論と実際を述べるができる。プロフェッショナルケアとホームケアの違いを区別している。処置内容の業務記録を書くことができる。					
テキスト・参考図書等	・最新歯科衛生士教本「口腔保健管理」(医歯薬出版) ・プリント					
評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準			
	試験	80%	①定期試験80% ②レポート10% ③取組姿勢・参加態度10%			
	レポート	10%				
	小テスト	%				
	提出物	%				
	その他	10%				
履修上の留意事項	①講義の中で基礎的知識を解説する。 ②口腔清掃用具の種類と使い方を示説する。 ③実際に業務記録を書いてみる。 ④授業中はノートをとる。 ⑤提出物の期限は守る。 ⑥積極的な態度で取り組むこと。 ⑦学習内容のボリュームが多いので遅れないこと。					
履修主題・履修内容	回数	履修主題	履修内容			
	1	口腔保健の意義	日常生活、食生活と口腔保健			
	2	対象把握と予防管理法	う蝕予防、歯周疾患予防の臨床			
	3	病態阻止のための継続管理1	歯周疾患、補綴物装着後の継続管理			
	4	病態阻止のための継続管理2	歯科治療終了後の矯正歯科治療の継続管理			
	5	口腔保健管理の実際	ライフステージごとの口腔保健管理			
	6	口腔保健管理の場の理解	老人保健事業、介護保険と口腔保健管理			
	7	口腔観察と記録	問診と口腔内診査			
	8	ホームケアとプロフェッショナルケア	機械的ブラークコントロールと化学的ブラークコントロール			
	9	口腔清掃の術式と器材	口腔清掃方法の選択			
	10	おもなブラッシング指導	幼児期、学童期、思春期、成人期のブラッシング指導			
	11	特別な要因がある場合のブラッシング指導	歯列不正、歯肉退縮、知覚過敏などのブラッシング指導			
	12	業務記録の種類と形式	業務記録の目的と意義			
	13	学童期の指導	臨床の場における業務記録1(演習)			
	14	歯周疾患患者の継続管理指導	臨床の場における業務記録2(演習)			
15	要介護高齢者の指導	訪問歯科保健指導の業務記録(演習)				

授業科目 (科目ID)	歯科予防処置法 I 22d122		担当教員  (実務経験)	松本 崇嗣  有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 歯科衛生士として、う蝕や歯周病の予防業務に従事しており当該科目の教育を行う。		
対象年次・学期	1年・通年		必修・選択区分	必修	zyuuzi	3単位
授業形態	講義・演習		授業回数(1回90分)	45	時間数	90時間
授業目的	口腔疾患(う蝕と歯周疾患)に対するの予防に関する知識と技術を身につける					
到達目標	う蝕予防処置に対する知識と技術を行える。歯周疾患に対する知識とシックルスクレーラーをキュレットスクレーラーの操作を確実に行える。					
テキスト・参考図書等	・最新歯科衛生士教本「歯科予防処置論・歯科保健指導論」(医歯薬出版) ・使用器材スクレーラーセット、顎模型					
評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準			
	試験	80%	①定期試験80% ②レポート10% ③実習技能点10%			
	レポート	10%				
	小テスト	%				
	提出物	%				
その他	10%					
履修上の留意事項	*主に実習を中心に技能習得を確認しながら進行する。実習内で目標を達成できない時は、補習を行う。 ①実習では、爪、頭髮、アクセサリなどの身だしなみを整える。 ②スクレーラー操作を習得するため、毎日の訓練を怠らないこと。 ③実習課題は、毎回評価を行う。 ④合格ラインに達するまで補習を行う。					
履修主題・履修内容	回数	履修主題	履修内容			
	1	I編 1章歯科予防処置論・歯科保健指導論の概要	①必要性 ②定義 ③歯科衛生士法における歯科予防処置の位置づけ			
	2	II編 1章口腔の基礎知識1	①口腔・口腔周囲の構造 ②歯周組織 ③歯冠と歯根の形態			
	3	II編 2章口腔の基礎知識2 III編 2章歯科衛生アセスメントとしての情報収集と情報処理	2章-①-口腔内の付着物・沈着物 ②歯周組織 ③歯冠と歯根の形態 2章-⑥口腔の器質的問題の把握			
	4	II編 2章口腔の基礎知識2 III編 3章歯科衛生アセスメントとしての情報収集と情報処理	2章-①-口腔内の付着物・沈着物 ②歯周組織 ③歯冠と歯根の形態 2章-⑥口腔の器質的問題の把握			
	5	III編 3章歯科衛生介入としての歯科予防処置①-1	3章-①スクレーリング・ルートプレーニング 1. 手用スクレーラー 1)構成 2)基本設定 3.ミラーテクニック			
	6	III編 3章歯科衛生介入としての歯科予防処置①-2	3章-①スクレーリング・ルートプレーニング 1. 手用スクレーラー 3)スクレーラーの種類と操作方法 4) 部位別操作法			
	7	III編 3章歯科衛生介入としての歯科予防処置①-3	3章-①スクレーリング・ルートプレーニング 1. 手用スクレーラー 4) 部位別操作法: 下顎前歯部練習1			
	8	III編 3章歯科衛生介入としての歯科予防処置①-4	3章-①スクレーリング・ルートプレーニング 1. 手用スクレーラー 4) 部位別操作法: 下顎前歯部練習2			
	9	III編 3章歯科衛生介入としての歯科予防処置①-5	3章-①スクレーリング・ルートプレーニング 1. 手用スクレーラー 4) 部位別操作法: 下顎前歯部評価			
	10	III編 3章歯科衛生介入としての歯科予防処置①-6	3章-①スクレーリング・ルートプレーニング 1. 手用スクレーラー 4) 部位別操作法: 上顎前歯部練習1			
	11	III編 3章歯科衛生介入としての歯科予防処置①-7	3章-①スクレーリング・ルートプレーニング 1. 手用スクレーラー 4) 部位別操作法: 上顎前歯部練習2			
	12	III編 3章歯科衛生介入としての歯科予防処置①-8	3章-①スクレーリング・ルートプレーニング 1. 手用スクレーラー 4) 部位別操作法: 上顎前歯部評価			
	13	III編 3章歯科衛生介入としての歯科予防処置①-9	3章-①スクレーリング・ルートプレーニング 1. 手用スクレーラー 4) 部位別操作法: 下顎右側臼歯部練習			
	14	III編 3章歯科衛生介入としての歯科予防処置①-10	3章-①スクレーリング・ルートプレーニング 1. 手用スクレーラー 4) 部位別操作法: 下顎右側臼歯部評価			
15	III編 3章歯科衛生介入としての歯科予防処置①-11	3章-①スクレーリング・ルートプレーニング 1. 手用スクレーラー 4) 部位別操作法: 下顎左側臼歯部練習				

回数	履修主題	履修内容
16	Ⅲ編 3章歯科衛生介入としての歯科予防処置①-12	3章-①スケーリング・ルートプレーニング 1.手用スケーラー 4)部位別操作法:下顎左側臼歯部評価
17	Ⅲ編 3章歯科衛生介入としての歯科予防処置①-13	3章-①スケーリング・ルートプレーニング 1.手用スケーラー 4)部位別操作法:上顎右側臼歯部練習
18	Ⅲ編 3章歯科衛生介入としての歯科予防処置①-14	3章-①スケーリング・ルートプレーニング 1.手用スケーラー 4)部位別操作法:上顎右側臼歯部評価
19	Ⅲ編 3章歯科衛生介入としての歯科予防処置①-15	3章-①スケーリング・ルートプレーニング 1.手用スケーラー 4)部位別操作法:上顎左側臼歯部練習
20	Ⅲ編 3章歯科衛生介入としての歯科予防処置①-16	3章-①スケーリング・ルートプレーニング 1.手用スケーラー 4)部位別操作法:上顎左側臼歯部評価
21	Ⅲ編 3章歯科衛生介入としての歯科予防処置①-17	3章-①スケーリング・ルートプレーニング 1.手用スケーラー 5)部位別操作法:全顎部位からの実技評価
22	Ⅲ編 3章歯科衛生介入としての歯科予防処置①-A	3章-①スケーリング・ルートプレーニング 1.手用スケーラー 4)イリゲーション 6)シャープニング:練習
23	Ⅲ編 4章歯科衛生介入としての歯科予防処置①-B	3章-①スケーリング・ルートプレーニング 1.手用スケーラー 4)イリゲーション 6)シャープニング:評価
24	Ⅲ編 3章歯科衛生介入としての歯科予防処置①-i	3章-①スケーリング・ルートプレーニング 2.パワースケーラー 2)超音波スケーラー:マネキン実習1
25	Ⅲ編 4章歯科衛生介入としての歯科予防処置①-ii	3章-①スケーリング・ルートプレーニング 2.パワースケーラー 2)超音波スケーラー:マネキン実習2
26	Ⅲ編 4章歯科衛生介入としての歯科予防処置①-iii	3章-①スケーリング・ルートプレーニング 2.パワースケーラー 3)エアスケーラー マネキン実習1
27	Ⅲ編 5章歯科衛生介入としての歯科予防処置①-iv	3章-①スケーリング・ルートプレーニング 2.パワースケーラー 3)エアスケーラー マネキン実習2
28	Ⅲ編 5章歯科衛生介入としての歯科予防処置①-v	3章-①スケーリング・ルートプレーニング 2.パワースケーラー 2)超音波スケーラー 3)エアスケーラー まとめ
29	Ⅲ編 5章歯科衛生介入としての歯科予防処置②-1	3章-②歯面研磨・歯面清掃 1.歯面研磨 2.PTC/PMTC マネキン実習1
30	Ⅲ編 5章歯科衛生介入としての歯科予防処置②-2	3章-②歯面研磨・歯面清掃 1.歯面研磨 2.PTC/PMTC マネキン実習2
31	Ⅲ編 5章歯科衛生介入としての歯科予防処置②-3	3章-②歯面研磨・歯面清掃 2.歯面清掃 マネキン実習1
32	Ⅲ編 5章歯科衛生介入としての歯科予防処置②-4	3章-②歯面研磨・歯面清掃 2.歯面清掃 マネキン実習2
33	Ⅲ編 5章歯科衛生介入としての歯科予防処置②-5	3章-②歯面研磨・歯面清掃 まとめ
34	Ⅲ編 5章歯科衛生介入としての歯科予防処置③-1	3章-③フッ化物の応用 2.フッ化物歯面塗布
35	Ⅲ編 5章歯科衛生介入としての歯科予防処置③-2	3章-③フッ化物の応用 2.フッ化物歯面塗布(マネキン実習1)
36	Ⅲ編 5章歯科衛生介入としての歯科予防処置③-3	3章-③フッ化物の応用 2.フッ化物歯面塗布(マネキン実習2)
37	Ⅲ編 5章歯科衛生介入としての歯科予防処置③-4	3章-③フッ化物の応用 2.フッ化物歯面塗布(相互実習1)
38	Ⅲ編 5章歯科衛生介入としての歯科予防処置③-5	3章-③フッ化物の応用 2.フッ化物歯面塗布(相互実習2)
39	Ⅲ編 5章歯科衛生介入としての歯科予防処置③-6	3章-③フッ化物の応用 3.フッ化物洗口法 4.フッ化物配合歯磨剤
40	Ⅲ編 5章歯科衛生介入としての歯科予防処置③-7	3章-③フッ化物の応用 5.フッ化物の毒性と急性中毒への対応 6.ライフステージ別のフッ化物物局所応用
41	Ⅲ編 3章歯科衛生介入としての歯科予防処置④-1	3章-④小窩裂溝填塞法 3.術式 1)器具・薬剤の準備:マネキン実習1
43	Ⅲ編 3章歯科衛生介入としての歯科予防処置④-2	3章-④小窩裂溝填塞法 3.術式 2)レジン系・セメント系小窩裂溝法 マネキン実習2
44	Ⅲ編 3章歯科衛生介入としての歯科予防処置④-3	3章-④小窩裂溝填塞法:相互実習2
45	Ⅲ編 3章歯科衛生介入としての歯科予防処置(総括1)	3章-④小窩裂溝填塞法:相互実習2
45	Ⅲ編 3章歯科衛生介入としての歯科予防処置(総括2)	3章-①スケーリング・ルートプレーニング 2.パワースケーラー 相互実習の準備と後片付け

履修主題・  
履修内容

授業科目 (科目ID)	歯科保健指導法 I  22d123		担当教員  (実務経験)	西里 妃加  有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 歯科衛生士として、歯科保健指導業務に従事しており当該科目の教育を行う。		
対象年次・学期	1年・通年		必修・選択区分	必修		2単位
授業形態	講義・演習		授業回数(1回90分)	30	時間数	60時間
授業目的	歯科保健指導は歯科衛生士にとって主要な業務の1つであり、個人を対象としてその生活行動に適した専門的な立場からの助言や援助ができる力を養う。					
到達目標	口腔清掃の意義、歯科保健指導の目的を述べる事ができる。口腔内の観察ポイントや、正常像と初期病変との違いがわかり説明できる。歯垢の構成と病原性について述べる事ができる。口腔内を観察し、検査が実施できる。					
テキスト・参考図書等	・最新歯科衛生士教本「歯科予防処置論・歯科保健指導論」(医歯薬出版) ・使用器材スケーラーセット一式、顎模型、口腔ケアセット					
評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準			
	試験	80%	①定期試験80% ②レポート10% ③実習技能点10%			
	レポート	10%				
	小テスト	%				
	提出物	%				
その他	10%					
履修上の留意事項	①講義・演習・マネキン実習。②講義と演習・実習の同時進行。実習に必要なものを忘れない(忘れた場合は実習不可)。実習は、爪、頭髮など身だしなみを整えて臨むこと。実習時は、アクセサリ、時計ははずすこと。					
履修主題・履修内容	回数	履修主題	履修内容			
	1	I編 1章歯科予防処置論・歯科保健指導論の概要1	①必要性 ②定義 ③歯科衛生士法における歯科保健指導の位置づけ			
	2	I編 1章歯科予防処置論・歯科保健指導論の概要2	④健康概念 ⑤予防の概念			
	3	II編 1章口腔の基礎知識1	①口腔・口腔周囲の構造 ②歯周組織 ③歯冠と歯根の形態			
	4	II編 1章口腔の基礎知識2	④口腔の機能			
	5	II編 2章う蝕と歯周病の知識1	2章—①—口腔内の付着物・沈着物 ②う蝕 ③歯周組織			
	6	II編 2章う蝕と歯周病の知識2	3章—①—口腔内の付着物・沈着物 ②う蝕 ③歯周組織			
	7	II編 3章食生活指導のための基礎知識1	3章—①栄養の現状 ②栄養素の役割 ③栄養素の働き			
	8	II編 3章食生活指導のための基礎知識2	3章—④栄養素の消化・吸収 ⑤食事摂取基準 ⑥食品のう蝕誘発性			
	9	II編 3章食生活指導のための基礎知識3	3章—⑥食品のう蝕誘発性 ⑦歯周病と食生活			
	10	II編 3章食生活指導のための基礎知識4	3章—⑧酸蝕症と食生活 ⑨咀嚼と食品 ⑩特別用途食品と保健機能食品			
	11	III編 1章歯科衛生過程の進め方1	1章—①歯科衛生過程の進め方 ②歯科衛生過程の各構成要素			
	12	III編 2章歯科衛生アセスメントとしての情報収集と情報処理1	2章—①患者からの情報収集 ②全身の健康状態の把握 ③認知機能の評価			
	13	III編 2章歯科衛生アセスメントとしての情報収集と情報処理2	2章—④生活環境と生活背景の把握 ⑤生活習慣の把握			
	14	III編 2章歯科衛生アセスメントとしての情報収集と情報処理3	2章—⑥口腔の器質的問題の把握1			
15	III編 2章歯科衛生アセスメントとしての情報収集と情報処理4	2章—⑥口腔の器質的問題の把握2				

履修主題・履修内容	回数	履修主題	履修内容
	16	Ⅲ編 2章歯科衛生アセスメントとしての情報収集と情報処理5	2章—⑦口腔の機能的問題の把握1
	17	Ⅲ編 2章歯科衛生アセスメントとしての情報収集と情報処理6	2章—⑦口腔の機能的問題の把握2
	18	Ⅲ編 2章歯科衛生アセスメントとしての情報収集と情報処理7	2章—⑧分析のためのデータ1 1.指標 1)口腔衛生状態
	19	Ⅲ編 2章歯科衛生アセスメントとしての情報収集と情報処理8	2章—⑧分析のためのデータ1 1.指標 2)歯周疾患指数
	20	Ⅲ編 2章歯科衛生アセスメントとしての情報収集と情報処理9	3章—⑧分析のためのデータ3 1.指標 3)う蝕指数 2.写真・画像
	21	Ⅲ編 2章歯科衛生アセスメントとしての情報収集と情報処理10	3章—⑧分析のためのデータ3 2.写真・画像
	22	Ⅲ編 2章歯科衛生アセスメントとしての情報収集と情報処理11	3章—⑧分析のためのデータ3 3.歯周病に関する検査 4.う蝕に関する検査1
	23	Ⅲ編 2章歯科衛生アセスメントとしての情報収集と情報処理12	3章—⑧分析のためのデータ3 3.歯周病に関する検査 4.う蝕に関する検査2
	24	Ⅲ編 4章歯科衛生介入としての歯科保健指導1	4章—①口腔衛生管理に関わる指導 1.ブラッシング1
	25	Ⅲ編 4章歯科衛生介入としての歯科保健指導2	4章—①口腔衛生管理に関わる指導 1.ブラッシング2
	26	Ⅲ編 4章歯科衛生介入としての歯科保健指導3	4章—①口腔衛生管理に関わる指導 2.その他の清掃方法1
	27	Ⅲ編 4章歯科衛生介入としての歯科保健指導4	4章—①口腔衛生管理に関わる指導 2.その他の清掃方法2
	28	Ⅲ編 4章歯科衛生介入としての歯科保健指導5	4章—①口腔衛生管理に関わる指導 3.洗口液・洗口剤 4.保湿剤
	29	Ⅲ編 4章歯科衛生介入としての歯科保健指導6	4章—②口腔機能管理に関わる指導① 1.口腔機能の発達に関連する指導 2.口腔機能低下に関連する指導
30	Ⅲ編 4章歯科衛生介入としての歯科保健指導7	4章—②口腔機能管理に関わる指導② 1.口腔機能の発達に関連する指導 2.口腔機能低下に関連する指導 3.まとめ	

授業科目 (科目ID)	歯科理工学  22d124		担当教員  (実務経験)	西里 妃加  有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 歯科衛生士として、歯科診療で理工学業務に従事しており、当該科目の教育を行う。		
対象年次・学期	1年・前期		必修・選択区分	必修	単位数	1単位
授業形態	講義		授業回数(1回90分)	8	時間数	16時間
授業目的	歯科材料の基本的性質、用途、取り扱いなどの基礎知識を科学的な視点をもって習得する。					
到達目標	歯科材料の名称及びその成分・利用目的を正確に理解し、習得する。材料を操作した時に生じる化学反応・物理的变化を述べることができる。歯科診療の場で歯科材料を正しく使用でき、また管理できる。各歯科材料の用途や目的、およびその性質についてわかりやすく述べるができる。歯科材料の使用法を学び、性質を述べるができる。					
テキスト・参考図書等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・最新歯科衛生士教本「歯科診療補助論」(医歯薬出版)</li> <li>・最新歯科衛生士教本「歯科材料」(医歯薬出版)</li> </ul>					
評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準			
	試験	80%	①定期試験80% ②レポート20%			
	レポート	20%				
	小テスト	%				
	提出物	%				
その他	%					
履修上の留意事項	①基本的には予習及び復習ができるように、教本の内容に従って講義をする。 ②授業時間内になるべく理解するように心がける。 ③授業の内容を反復理解し、教科書・ノートに戻ってはイメージトレーニングを行うこと。					
履修主題・履修内容	回数	履修主題	履修内容			
	1	歯科材料の基礎知識	歯科材料の分類、所要性質、素材、歯科材料の基本的性質			
	2	歯科材料の取り扱い1	印象材			
	3	歯科材料の取り扱い2	模型用材料			
	4	歯科材料の取り扱い3	合着材および接着材			
	5	歯科材料の取り扱い4	成形歯冠修復材			
	6	歯科材料の取り扱い5	仮封材、歯肉圧排用薬剤、ワックス			
	7	歯科材料の取り扱い6	新しい歯科材料、他の歯科治療用材料			
	8	歯科材料の取り扱い7	補綴用材料、(人工歯、床用材料、鑄造、ろう付け、重合、研磨と研磨材)			
	9					
	10					
	11					
	12					
	13					
	14					
15						

授業科目 (科目ID)	臨床検査法  22d125	担当教員  (実務経験)	橋本 李奈  有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 歯科衛生士として、歯科治療に必要な臨床検査の補助に従事しており、当該科目の教育を行う。別紙1参照		
対象年次・学期	1年・後期	必修・選択区分	必修	単位数	1単位
授業形態	講義・演習	授業回数(1回90分)	15	時間数	30時間
授業目的	診療前・中・後の患者の身体的状態を把握する。検査方法や検査値が示す身体的状態を正しく理解する。				
到達目標	バイタルサイン(体温・脈圧・血圧)測定ができる。血液の検査方法と検査値を正しく述べるができる。口腔領域に関する検査を正しく実施できる。				
テキスト・参考図書等	・最新歯科衛生士教本「臨床検査」(医歯薬出版)				
評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験	80%	①定期試験80% ②レポート10% ③実習態度10%		
	レポート	10%			
	小テスト	%			
	提出物	%			
その他	10%				
履修上の留意事項	①講義と実習を組み合わせ、知識と実践に理解を深める。②実習の留意点はよく聞き、理解してから慎重に操作する。 ③実習では、爪、爪、頭髪、アクセサリなどの身だしなみを整える。④レポートの提出期限は守る。				
履修主題・履修内容	回数	履修主題	履修内容		
	1	1章 臨床検査とは (橋本)	どんな検査があるか。検査成績の読み方など		
	2	2章 生体検査1 (橋本)	体温検査、脈拍検査、血圧検査		
	3	2章 生体検査2 (山内)	心機能検査、肺機能検査、筋電図検査、脳波検査、血中酸素濃度検査		
	4	3章 検体検査1 (橋本)	血液検査		
	5	3章 検体検査2 (橋本)	生化学検査		
	6	3章 検体検査3 (橋本)	免疫・血清検査		
	7	3章 検体検査4 (橋本)	血液型検査、その他の検査		
	8	3章 検体検査5 (橋本)	感染症(細菌)検査		
	9	3章 検体検査6 (橋本)	病理検査		
	10	4章 口腔領域の臨床検査1 (橋本)	口臭検査、味覚検査、歯科金属アレルギーの検査		
	11	4章 口腔領域の臨床検査2 (橋本)	舌の検査、口腔粘膜の検査		
	12	4章 口腔領域の臨床検査3 (橋本)	唾液検査		
	13	4章 口腔領域の臨床検査4 (橋本)	歯周組織の検査、歯の検査、根管内細菌培養検査		
	14	5章 摂食・嚥下関連検査 (橋本)	摂食・嚥下障害のスクリーニングテスト、摂食・嚥下障害の検査法		
15	総括 (橋本)	主な疾患・病態別検査値のとらえ方			





授業科目 (科目ID)	院内感染予防  22d126		担当教員  (実務経験)	伊藤 彩  有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 歯科衛生士として、診療室内の感染対策に従事しており、当該科目の教育を行う。別紙1参照		
対象年次・学期	1年・前期		必修・選択区分	必修	単位数	1単位
授業形態	講義・演習		授業回数(1回90分)	10	時間数	20時間
授業目的	感染症の原因となる微生物の特徴を把握し、標準予防策、感染経路別対策、滅菌・消毒、環境管理を含めた効果的な感染対策を習得する。					
到達目標	各滅菌・消毒法について説明できる。目的に応じて適切な滅菌・消毒を選択できる。効果的な滅菌・消毒を実践できる。清潔域・不潔域の区別がわかる。正しい手洗いができる。スタンダードプリコーションの実践的対策を遵守できる。					
テキスト・参考図書等	・最新歯科衛生士教本「歯科診療補助論」(医歯薬出版) ・院内感染予防対策マニュアル&研修テキスト(医歯薬出版)					
評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準			
	試験	60%	①定期試験60% ②レポート20% ③提出物20%			
	レポート	20%				
	小テスト	%				
	提出物	20%				
その他	%					
履修上の留意事項	①講義、示説、演習形式で行う。 ②講義は教本を中心に板書する。 ③示説はスライド、DVDなどを使い説明する。 ④演習は1人ずつ3人1組でグループごとに体験する。 ⑤身だしなみを整える。(アクセサリ、時計は外す)頭髪、着衣が適切でない時は、演習に参加することはできないので、注意すること。 ⑥忘れ物はしない。					
履修主題・履修内容	回数	履修主題	履修内容			
	1	歯科医療における感染予防対策、手指消毒(1)	スタンダードプリコーション、身だしなみ、マスク、グローブの着脱、手洗い			
	2	歯科医療における感染予防対策、手指消毒(2)	観血的治療の防護衣着用、手洗い			
	3	滅菌と消毒(1)	各種滅菌器の種類と特徴、使用濃度に合わせて消毒液の用途			
	4	滅菌と消毒(2)	診療前の基本セットの準備と・診療後の使用器材の消毒・滅菌			
	5	滅菌と消毒(3)	小器具(コントラ、ポリッシングブラシ、ラバーカップなど)の準備・消毒・滅菌・保管と管理			
	6	滅菌と消毒(4)	感染者への感染対策、使用器具の準備・消毒・滅菌・保管と管理			
	7	フォーハンデッドデンティストリーーにおける感染対策実習1	マネキン上でバキューム操作を想定した実習			
	8	フォーハンデッドデンティストリーーにおける感染対策実習2	マネキン上で感染者を沿うてしたバキューム実習			
	9	ユニット、スピットンなどの洗浄・消毒、廃棄物処理	スピットン、バキュームホースの洗浄・清掃、医療廃棄物の取り扱い			
	10	総合演習	リスクマネジメント			
	11					
	12					
	13					
	14					
15						



授業科目 (科目ID)	歯科医療安全管理 22d127		担当教員  (実務経験)	橋本 李奈  有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 歯科衛生士として、診療室において医療安全管理に従事しており、当該科目の教育を行う。別紙1参照	
対象年次・学期	1年・通年		必修・選択区分	必修	単位数 2単位
授業形態	講義		授業回数(1回90分)	15	時間数 30時間
授業目的	院内感染対策に関する基本的な考え方を身につける。医薬品の安全使用のための業務を把握する。医療機器の安全管理のための保守点検について学ぶ。				
到達目標	歯科医院における医薬品の安全管理ができる。医療機器のリスクマネジメントができる。院内感染対策のリスクマネジメントができる。				
テキスト・参考図書等	・院内感染予防対策マニュアル&研修テキスト(医歯薬出版) ・最新歯科衛生士教本「歯科機器」(医歯薬出版)				
評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験	60%	①定期試験60% ②レポート20% ③提出物20%		
	レポート	20%			
	小テスト	%			
	提出物	20%			
その他	0%				
履修上の留意事項	基礎知識を説明後、示説・実習をとおして ①院内感染対策に関する基本的な考え方を身につける。②使用する医薬品の取り扱いを体験する。③医療機器の操作や保守点検ができるよう指導する。 ④知識・技能が未熟な場合は、放課後補習する。⑤授業で板書したことは、必ずノートにまとめる。⑥解らない語句、意味は、積極的に質問するように。				
履修主題・履修内容	回数	履修主題	履修内容		
	1	医療安全と歯科衛生士の自覚 (藤澤)	診療室の医療安全、身だしなみ、ヒアリハット		
	2	感染予防 (橋本)	歯科診療における感染対策、患者誘導、ポジッション		
	3	滅菌・消毒室の流れ、診療室の消毒(1) (橋本)	歯科治療の準備～消毒液の作成、滅菌器の取り扱い、歯科治療後の後始末～感染廃棄物の管理		
	4	滅菌・消毒室の流れ、診療室の消毒(2) (橋本)	診療前の準備、診療後の後始末		
	5	滅菌・消毒室の流れ、診療室の消毒(3) (橋本)	術者の実習前・実習後の対応		
	6	歯科治療時の感染予防1 (橋本)	手洗い+口腔内洗浄(バキューム実習)における感染対策		
	7	歯科治療時の感染予防2 (橋本)	診療の補助1～染め出し+口腔内洗浄実習(感染者)		
	8	診療補助と共同動作1 (藤澤)	診療の補助2～バキューム操作と口腔内洗浄、使用後の器具の消毒・滅菌、管理		
	9	診療補助と共同動作2 (藤澤)	水平位診療での精密検査実習1		
	10	診療補助と共同動作3 (藤澤)	水平位診療での精密検査実習2		
	11	診療補助と共同動作4 (藤澤)	水平位診療での精密検査実習3(感染者)		
	12	診療補助と共同動作5 (藤澤)	水平位診療での精密検査実習4(感染者)		
	13	スケーリングを想定した感染対策1 (藤澤)	水平位診療でのスケーリング実習		
	14	スケーリングを想定した感染対策2 (藤澤)	水平位診療でのスケーリング実習(感染者)		
15	医療事故・医療過誤・医療紛争 (藤澤)	ヒヤリハットとインシデントとアクシデントの事例紹介			



授業科目 (科目ID)	歯科診療補助法 I  22d128		担当教員  (実務経験)	伊藤 彩  有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 歯科衛生士として、歯科治療や手術の補助などをしており当該科目の教育を行う。	
対象年次・学期	1年・通年		必修・選択区分	必修	単位数 2単位
授業形態	講義・演習		授業回数(1回90分)	30	時間数 60時間
授業目的	歯科治療や手術の補助をスムーズに展開するために、準備する器材、術式、診療時の留意点などを理解し、実践できる力を身につける。歯周疾患の予防的知識と処置を学ぶ。				
到達目標	フォーハンドシステムでのバキューム操作、器具の取り扱い、受け渡しなどができる。歯科材料(印象材、石膏、合着材、成形修復材など)を適切に取り扱うことができる。全身疾患をもつ患者の診療の補助ができる。				
テキスト・参考図書等	・最新歯科衛生士教本「歯科診療補助論」(医歯薬出版) ・最新歯科衛生士教本「歯科材料」(医歯薬出版) ・最新歯科衛生士教本「歯科機器」(医歯薬出版) ・スケーラーセット、顎模型				
評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験	80%	①定期試験80% ②レポート10% ③実習技能点10%		
	レポート	10%			
	小テスト	%			
	提出物	%			
その他	10%				
履修上の留意事項	①講義・示説、演習形式で行う。②講義は教本を中心に板書する。③示説はスライド、DVDなどを使って説明する。④演習は、1人ずつ、3人1組、グループごとに体験する。⑤私語厳禁、積極的な受講態度。⑥学生指導に基づいた身だしなみ。(整髪、薄化粧、爪、ピアスは外す、エプロン装着) ⑦忘れ物はしない。				
履修主題・履修内容	回数	履修主題	履修内容		
	1	1章 歯科診療補助の概念	1.歯科衛生士の業務と歯科診療補助 2.診療の補助の範囲の法的な変化		
	2	5章 歯科診療で扱う歯科材料 ①印象採得 1	1.基礎知識 2.アルジネート印象材による概形印象採得(1)		
	3	5章 歯科診療で扱う歯科材料 ①印象採得 2	1.基礎知識 2.アルジネート印象材による概形印象採得(2)		
	4	5章 ②模型の作製 1	1.歯科用石膏の基礎知識 2.歯科用石膏の練和		
	5	5章 ②模型の作製 2	3.歯科用石膏の管理方法		
	6	5章 ①印象採得 3	3.寒天印象採得の補助		
	7	5章 ①印象採得 4	4.合成ゴム質印象の補助		
	8	5章 ①印象採得 5	5.その他の印象材の取り扱い		
	9	5章 ①合着・接着の補助 1	1)練和の基本 ～一括練和・筆積法または混和法・分割練和 (1)		
	10	5章 ①合着・接着の補助 2	1)練和の基本 ～一括練和・筆積法または混和法・分割練和 (2)		
	11	5章 ①合着・接着の補助 3	2.合着・接着の際に患者に説明しておくべき事項		
	12	5章 ④成型歯冠修復の補助 1	1.基礎知識 2.成型歯冠修復材の種類		
	13	5章 ④成型歯冠修復の補助 2	3.コンポジットレジンの取り扱い		
	14	5章 ④成型歯冠修復の補助 3	4.ガラスイオノマーセメントの取り扱い		
15	5章 ⑤仮封・仮着の補助 1	1.基礎知識 2.仮封材・仮着材の種類 3.セメント系の取り扱い			

履修主題・履修内容	回数	履修主題	履修内容
	16	5章 ⑤仮封・仮着の補助 2	4.水硬性仮封材 5.仮封用軟質レジン 6.ストップングの取り扱い
	17	3章 ⑦ラバーダム防湿 1	1.基礎知識:目的、利点、欠点、器具の名称と用途、手順、マネキン実習
	18	3章 ⑦ラバーダム防湿 2	マネキン実習(前歯部・臼歯部):1歯露出、2歯露出など
	19	3章 ⑦ラバーダム防湿 3	相互実習:1歯露出
	20	3章 ⑧歯肉圧排	歯肉圧排法、歯肉圧排用薬剤、歯肉圧排の手順
	21	4章 ①保存修復時の診療補助(直接法)	保存修復治療の例と診療補助の流れ(器具の名称と用途、成形修復材)
	22	4章 ①保存修復時の診療補助(間接法)	保存修復治療の例と診療補助の流れ(窩洞形成と印象採得)
	23	4章 ②歯内療法時の診療補助(麻抜法)	歯内療法の例と診療補助の流れ(交互洗浄と綿栓巻き)
	24	4章 ②歯内療法時の診療補助(根充)	歯内療法の例と診療補助の流れ(器具の名称と用途、仮封材の練和)
	25	4章 ③歯周治療時の診療補助	歯周治療の例と診療補助の流れ(歯周外科手術と使用器具の名称と用途)
	26	4章 ④補綴治療時の診療補助(クラウン)	補綴治療の例と診療補助の流れ(補綴物の種類)
	27	4章 ④補綴治療時の診療補助(義歯)	補綴治療の例と診療補助の流れ(局部床義歯と全部床義歯)
	28	5章 ⑥ワックス	1.基礎知識 2.ワックスの種類と用途
	29	4章 ⑤口腔外科治療時の診療補助 ⑥歯科麻酔時の診療補助	口腔外科治療の例と診療補助の流れ(小手術の器具) 口腔外科学・歯科麻酔学:歯科衛生士の役割のまとめ
30	4章 ⑧小児歯科時の診療補助	小児歯科治療の例と診療補助の流れ(保存修復に使用する器具・材料)	

2023年度

吉田学園医療歯科専門学校

歯科衛生学科

授業科目 (科目ID)	臨地・臨床実習 I  22d129	担当教員  (実務経験)	伊藤 彩  有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 歯科衛生士として、臨床実習指導に従事しており当該科目の教育を行う。		
対象年次・学期	1年・通年	必修・選択区分	必修	単位数	1単位
授業形態	実習	授業回数(1回90分)		時間数	45時間
授業目的	歯科衛生士の業務の実際を理解するために、歯科診療室の見学を行う。また、保育園、高齢者施設での幼児・高齢者の生活をとおして他職種の業務を見学し、理解を深める。				
到達目標	歯科衛生士として基本姿勢(挨拶・身だしなみなど)を保ち、実践することができる。スタッフ、他職種の方々と連携を図ることができる。				
テキスト・参考図書等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・歯科医院実習見学:臨床実習帳:スケーラーセット、顎模型、口腔ケアセットなど。</li> <li>・保育園・高齢者施設:臨床実習帳、顎模型口腔ケアセットなど。</li> </ul>				
評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験	%	* 評価基準 A:優れている(助言なしでもほぼできる) B:できるが発展性がない(多くの助言・指導があればできる) C:劣っている(多くの助言・指導があってもできない) D:見学・実習をしていない(出席日数不足) * 評価項目 ①医療従事者としての基本姿勢、態度 ②月別実習項目の知識 ③月別実習項目の技能 ①～③をそれぞれ評価後、総合評価する:A(80～100点)、B(70～79点)、C(60～69点)、D(59点以下)		
	レポート	%			
	小テスト	%			
	提出物	%			
その他	100%				
履修上の留意事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>・歯科医院の診療室で主に見学実習を行う。</li> <li>・保育園、高齢者施設で主に幼児・高齢者への対応を見学する。</li> </ul> ①体調管理(欠席、遅刻、早退は厳禁) ②実習生としてのマナー～清潔な白衣、エプロン、実習靴、マスク、グローブを身につける。化粧・毛染めはしない、頭髪、爪、ピアスは外す。挨拶、返事、言葉遣い。				
履修主題・履修内容	回数	履修主題	履修内容		
	1	歯科医院見学実習	患者の誘導、使用器材の準備、使用後の滅菌消毒、保管方法などを見学する		
	2	保育園施設見学実習	園児の生活や遊びをとおしてコミュニケーションの回り方を体験する。		
	3	高齢者施設見学実習	高齢者・障害者の施設生活をとおして介助やコミュニケーションの回り方を体験する。		
	4	計 7日間			
	5				
	6				
	7				
	8				
	9				
	10				
	11				
	12				
	13				
	14				
15					



2023年度

吉田学園医療歯科専門学校

歯科衛生学科

授業科目 (科目ID)	接遇マナー  22d130	担当教員  (実務経験)	高野 文子  有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 歯科衛生士をとおして、礼儀作法の指導に従事しており、当該科目の教育を行う。		
対象年次・学期	1年・前期	必修・選択区分	必修	単位数	1単位
授業形態	演習	授業回数(1回90分)	8	時間数	16時間
授業目的	マナーの本質である人を尊び、敬い、感謝する心を育み、社会人(医療人)としての基本を身に付ける。				
到達目標	マナーの本質を理解し信頼関係を築くことができる。医療従事者としての受け答えができる。医療従事者としての接遇・対応ができる。				
テキスト・参考図書等	・プリント配布				
評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験	80%	①実技試験80% ②授業態度20%		
	レポート	%			
	小テスト	%			
	提出物	%			
	その他	20%			
履修上の留意事項	①『挨拶』、『立ち居ふるまい』の反復練習を行う。②講義と演習を組み合わせで行う。 ③授業に対する積極性と取り組み方を重視する。④実習を着ての授業も行う。				
履修主題・履修内容	回数	履修主題	履修内容		
	1	礼とは、マナーの本質	・なぜマナーが必要なのか ・「礼」の本質について ・挨拶の重要性 ・振り返りシートについて <実 技>基本動作(1)/立位・立礼		
	2	美しい立ち居ふるまい(1)	・基本姿勢(美しい姿勢・心の姿勢) ・相手を敬う立ち居ふるまい(階段/廊下) ・物の授受 <実 技>基本動作(2)		
	3	信頼関係を築く<基本の心得>	・自分の立場を知る ・上座・下座・正中について ・場所の違いによる動作 <実 技>基本動作 復習		
	4	医療人としての身だしなみ	・医療従事者としての身だしなみ ・信頼される態度について ・信頼関係を高める表情 <ワーク>身だしなみチェック		
	5	医療従事者としての心得、自立の姿勢について	・医療従事者としての心得 ・歯科衛生士としての在り方 ・自立の姿勢を構成する要素		
	6	医療コミュニケーションの重要性	・歯科衛生士に必要なコミュニケーション力 ・コミュニケーションの本質とは ・承認することの大切さ ・信頼関係を高める傾聴力		
	7	医療人としての接遇・対応の基本	・医療接遇の目的 ・医療における接遇の重要性 ・相手を敬う態度・動作		
	8	総合演習	・現場の流れに沿って、歯科衛生士に必要な『挨拶』『立ち居ふるまい』『コミュニケーション』『身だしなみ』等の総合演習		
	9				
	10				
	11				
	12				
	13				
	14				
15					